

災害から身を守る

土砂災害

台風、大雨、地震などによる「土砂災害」がくり返し発生しています。

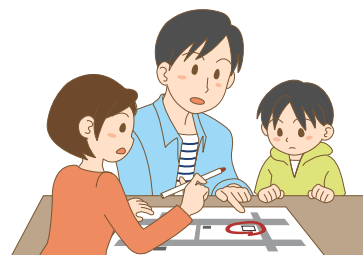
自分の家が危険箇所かどうか確認しておく

土砂災害発生の恐れのある地区は、「土砂災害危険箇所」とされています。自宅が危険かどうか確認しておきましょう。

降雨時には「土砂災害警戒情報」に注意して早めの避難を

大雨により土砂災害の危険度が高まった市町村を特定し奈良県と気象台が共同で発表する情報です。避難勧告や住民の自主避難の判断などへの利用が目的です。情報は気象庁のホームページに掲載されています。

自宅や外出先の近くの避難場所など安全な場所に早めの避難をしましょう。強い雨や長雨のときなどは、市の防災行政無線や広報車による呼びかけにも注意を払いましょう。避難所まで行く時間的な余裕がないときは、近くの頑丈な建物の2階以上か家の中の安全な場所に避難しましょう。溪流などでは、流れと直角方向にすぐ逃げてください。



近くでこんな前兆が見られたら要注意!

山鳴りがする、斜面から小石がぱらぱら落ちる、がけに亀裂が入る、湧水が濁る、溪流が急に濁る、雨が降っているのに水位が下がる、腐った土のにおいがする…など

土石流危険溪流

氾濫開始点

土石流の被害の恐れのある箇所

●土石流

谷や斜面にたまった土・石・砂などが、梅雨や台風などの集中豪雨による水と一緒に、津波のように流れ出る。速度も速く、大きな石や岩、流木を含むのであつという間に家や田畑を潰し、押し流す。

地すべり危険箇所

●地すべり

比較的緩やかな斜面において、地中の粘土層など、滑りやすい面が地下水の影響などで、ゆっくりと動き出す。地面が広く動くため、発生すると住宅、道路、鉄道など広範囲にわたって被害を及ぼす。

急傾斜地崩壊危険箇所

5m以上

30°以上

がけ崩れの被害の恐れのある箇所

●がけ崩れ

大雨などにより地面にしみこんだ水分が地盤を弱めたり、地震によって急な斜面が突然崩れ落ちる。突発的に起こり、瞬時に土砂が崩れ落ちるので逃げ遅れる人も多く、死者が出ることもある。

水害

ゲリラ豪雨



前兆を見逃さない

ゲリラ豪雨の発生前には

巨大な積乱雲が発生



空が暗くなる



雷鳴・稲光



冷たい風が吹く

などの前兆があります。

ゲリラ豪雨への対策

河原や溪流にいる場合

川の水位は短時間で急激に上昇します。上空が晴れていても水位が上がったらすぐに川から離れてください。特に中洲にいる場合は迅速な行動をとりましょう。

街の中で遭遇したら

局地的な浸水の恐れがあるため、地下鉄の駅や地下街、地下駐車場にいる場合はすぐ地上へ。道路ではマンホールや側溝の蓋が外れる危険が。水が引くまで路上を歩くことは避けます。

家屋の浸水から身を守る

半地下の玄関や駐車場には止水板や土嚢を積みます(家庭用ゴミ袋に水を入れた「手づくり水嚢」でも代用可)。家が低地にある場合は、貴重品や電化製品等を2階へ移動しましょう。

台風

毎年、日本各地に被害をもたらす台風。大雨や暴風によりさまざまな被害が発生します。身近な災害だけに、油断は禁物です。

屋外

土のう代用

ポリ袋を使った水のうの作り方
水を入れたポリ袋をダンボールに入れる



屋外やベランダで飛ばされそうなものはロープで固定、植木鉢等は室内へ



雨どいや側溝などがゴミで詰まっていないか掃除する

窓や雨戸をテープやベニヤ板などで補強

浸水しそうな場所に土のうをつむ

屋内

雨戸や厚手のカーテンを閉じる

浸水する恐れがある場合は、家具や電化製品を高所に移動

テレビやラジオ、携帯電話などで最新情報をチェック

懐中電灯、予備電池、非常食、飲み水や生活水の準備

地震

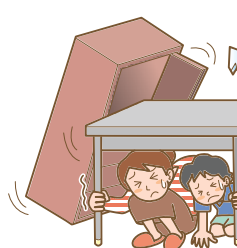
地震対策で最も重要なことは、過去の震災被害を教訓とした日ごろからの“減災”対策。そして、万が一起こってしまった時に被害を最小限にとどめるための行動について知っておくことです。

突然の揺れから身を守る

布団、クッション、スーツケースなど手近にあるもので頭やからだを保護する。



丈夫なテーブルや机の下にもぐり、脚をしっかりとつかむ。



潜り込むものが無い時は、落下物や丈夫な家具との間にできる三角スペースへ逃げ込む。



洪水

**避難するときのポイント
洪水のときはこうして避難!!**

歩ける深さは、男性で約70cm、女性で約50cm。水深が腰までであるようなら無理は禁物。高所で救助を待ちましょう。



裸足、長靴は禁物。ひもでしめられる運動靴が良いでしょう。



水面下にはどんな危険が潜んでいるかわからないので、長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きます。



はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。特に子どもから目を離さないように!



お年寄りや身体の不自由な人などは背負い、幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用して安全を確保して避難します。

